

RIVAGE

平成25年10月4日発行
横浜市立上永谷中学校
『RIVAGE』第1号
2年 半田乃愛
2年 真木あゆみ
2年 宮城春香

進化の横浜港

Y-CCとは...?

Y-CCは、保管・荷さばき・流通加工・展示販売・配送等の多様化する物流ニーズに対応できる施設であり、我が国最大級の総合物流施設となっています。平成8年8月に開業以来輸入貨物はもちろん、輸出貨物・国内卸売業者の配送センター等、様々な用途に利用されています。さらには、国際物流と国内物流の結節点の役割を果たし、輸出品が早く、安く消費者の手元に届くようになるなど、横浜港の物流の改善や、物流機能の強化・高度化に大きく貢献しています。

ランウェイと各階走行路により、大型コンテナも各階に直接乗り入れが可能で、全天候型・24時間対応の施設です。

様々な高速道路網により首都圏を中心に、中部や東北の広い地域への交通の便に恵まれています。物流棟屋上は広大な駐車スペースがあり、周りの道路も整備されていますので、貨物車両の集中にも対応可能で、非常に効率的です。

物流棟は、耐震性に優れたプレキャスト工法を採用しています。更には、11.1mの柱間隔を可能にして、スペースを無駄なく、活用出来ます。物流棟と事務所棟を一体

化した、Y-CC-ターミナル管理システムによって、車両管制、監視カメラ、カードキーシステム連動機械整備や、24時間警備員常駐等様々な精良なセキュリティ機能があり、防犯面、車両交通面でも安全です。

横浜港は、1895年7月1日に、国際貿易港として開港しました。東京湾の北西側に位置し、風向、風力、潮流、水深等最適な条件に恵まれた、天然の良港となっていました。そして、本牧、大黒ふ頭、南本牧ふ頭を中心に、貨・量ともに充実した港湾施設や、ロジスティック機能が集積しています。また、横浜港では、コンテナ

テナ船を利用することにより、まとめて貨物を運ぶことができ、効率的な荷役を可能にしています。

Great!!
Yokohama
外国貿易額は、約10.4兆円で、日本の貿易額の約7.8%を占めていて、取引相手国は150ヶ国以

上にのぼり、日本を代表する港となっています。そんな横浜港が横浜市にもたらす経済効果は、間接効果も含めると、約3割に達しています。さらに、市内雇用者の約3人に1人は、港に関わる仕事に従事しているのです。このように、横浜港では多くの貨物の輸出入が行われており、私達の生活を支えてくれています。

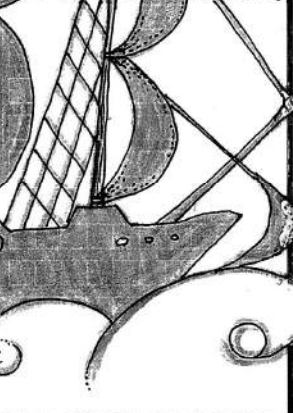
横浜港の昔話

～開港から文明開化まで～

1853年7月、アメリカのペリー提督が4隻の船を率いて浦賀に来航し、日本鎖国政策を変えさせ、港を開くように強く要求しました。それ迄の日本は、オランダ等のごく一部の国との交渉をしてきませんでしたが、翌年の1854年3月、幕府は「日米和親条約」を結び、その後1858年7月「日米修好通商条約」を始め、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと条約を結んで、これらの

国々と交流を始めました。そして、1859年7月1日、神奈川、長崎、箱館(函館)を開港し、外国との自由貿易を許可しました。但し、ハリスが考えていた神奈川は、現在の神奈川区東神奈川辺りを神奈川宿であり、一方、幕府は、横浜を考えていました。幕府としては外国人と日本人を遠ざけるために、東海道の宿場を開港場にするには、横浜の開港を強く主張し、一方的に開港場を作っていました。

当時の横浜は港の施設がほとんどない、小さな漁村だったので、開港すると現在の大きな橋の付け根付近に2ヶ所の波止場が作られました。船は沖に停泊し、「はしけ」や「汽船」と呼ばれる小さな船が陸との間を往復して、人と荷物を運びました。当時はこのような小さな港からの出発でした。



大さん橋

国際旅客ターミナル

大さん橋国際旅客ターミナルは、1894年鉄橋橋(現大さん橋)竣工(幅19m、長さ約457m)メリケン波止場と呼ばれました。1964年、東京オリンピックに合わせて、ターミナルが完成し、2002年、新ターミナルが完成しました。ターミナル建物のデザインは、イギリス人の若手建

築家(アレバンドロ・ザヴェイ氏)によるもので、建物内部は、柱のない大空間を設けています。昨年の外航客船の客港は142隻で、年間の客船寄港数は10年連続全国1位。昨年のターミナル入場者数は、約204万人です。施設概要は、山下側岸壁(A・B

バス)延長450m、水深12m、エプロン幅20mで、新港側岸壁(C・Dバス)延長456m、水深10~11m、エプロン幅20m、渡船橋4基です。また、3万トンクラスの客船(飛鳥II・にっぽん丸等)は、4隻、それ以上のクラスの客船は2隻が同時着岸が可能です。大さん橋は、まさしく日本を誇るターミナルなのです。

RORO船とは「Roll On Roll Off Ship」-ロールオンロールオフ船の略で「乗り込んで降りる」という意味です。RORO船。一見可愛い名前ですが、この船は中にレーラーが自走して乗り込む構造で、在来船の多額な投資が必要だったクレーンを使う方法ではなく、直接貨物

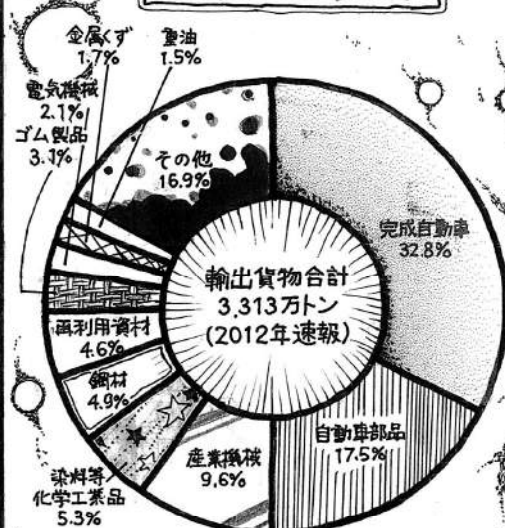
の積み降ろしが可能な、とても画期的な船です。21世紀初頭の現在では、日本国内で海上輸送される、貨物のほとんどが、RORO船、またはフェリーで運ばれています。最近では、RORO船とフェリー

の構造は似てきていますが、RORO船はフェリーと違い、主に一般の旅客と乗用車乗船を行わず、ドライバーのみ13人未満の定員です。そして、このRORO船は、トラック輸送と比べて、貨物の大量輸送が出来て、さらに二酸化炭素の排出量も少ないので、環境にも優しいのです。

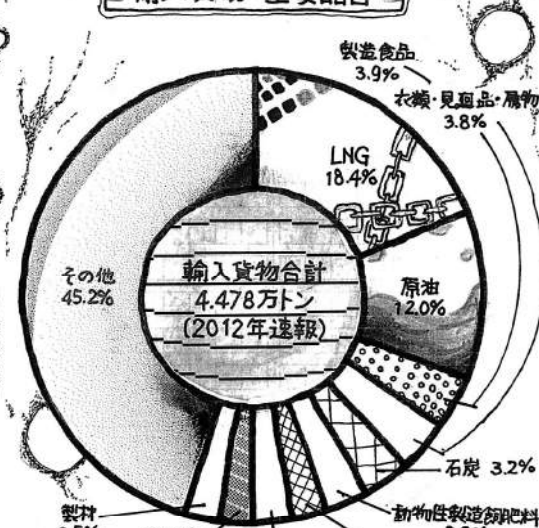


横浜港の主な取扱品

輸出貨物 主要品目



輸入貨物 主要品目



出典:平成24年横浜港統計年速報

横浜港では、多くの物が輸出入されています。その主要輸出貨物品目は、約3割が完成自動車、約2割が自動車部品、約1割が産業機械となっています。また主要輸入貨物品目は、約2割がLNG、約1割が原油となっています。これらから分かるよ

うに、横浜港では機械系物の物を輸出し、原料などを輸入していることがわかります。その輸出における輸送ルート例として、完成自動車の場合は日産→大黒・磯頭地区→中国・アメリカ、といったルート。その輸入における輸送ルート例として、

LNG・原油の場合は世界各地→民間バス(東京ガス・東京電力等)といったルートになっています。このように、それぞれのルートがあり、効率良く、工夫されているのです。

編集後記

横浜港を色々な角度から見ることで、知ることが出来て、楽しく学ぶことが出来ました。また、興味を持って調べ、皆さんに横浜港について紹介したいです。ありがとうございました。

